



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第110号

2013.3.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

もくじ

おしらせ

ー霧ヶ谷湿原の保全作業について

活動報告

ーブッポウソウの保全活動

観察会案内

ー山焼き後の雲月山植物観察会

ーカスミサンショウウオの産卵調査

おしらせ

●霧ヶ谷湿原の保全作業について

公益社団法人日本山岳連盟広島県支部より、霧ヶ谷湿原の保全作業の案内がありましたので、お知らせします。詳細は下記へお問い合わせ下さい。

日時：2013年4月21日（日）9:30 集合

10時～15時作業

集合場所：高原の自然館

作業内容：霧ヶ谷湿原内のカラコギカエデやノイバラなどの伐採作業

持ち物：作業用の手ノコ、カマ、熊手など・昼食

詳細問い合わせ：斎陽（イツキタカシ）

携帯電話：090-7778-7732

メール：t.yuuyuu@nifty.com

観 察 会 報 告

● ブッポウソウの保全活動

開催日時：2013年3月9日（土）10:00

講師：上野吉雄・暮町昌保

空は青く澄み渡り、雪もすっかり溶けて春の息吹が感じられる朝、北広島町川小田でブッポウソウの巣箱づくりが行われました。参加者は、西中国山地自然史研究会の有志6名です。

暮町先生より巣箱づくりを指導いただきました。板や釘などの材料のほか、槌やのこぎり、電動のこぎりなど必要な工具一式も用意してくださいました。

参加者は予め用意された設計図を見ながら、巣箱づくりに取りかかりました。巣箱の底板の四隅を少しカットして雨水が入っても抜け落ちるようにしました。巣箱を架ける時に、おがくずを敷くとの説明がありました。約1時間半で予定していた11個の巣箱が完成。巣箱を前に記念写真を撮りました。

その後、上野先生より、ブッポウソウの生態について次のように説明がありました。

ブッポウソウは渡り鳥で、日本には4月下旬から5月の初旬にかけて特にボルネオ島を中心とする東南アジアからはるばる4,000km飛来する夏鳥である。繁殖形態は卵生で5月から6月にかけて行なわれる。1回に4~6個の卵を産み、抱卵日数は20日で孵化する。巣の中には貝殻、プルタブ、瀬戸物のかげらや小石などがある。この習性はヒナがこれらの堅いものを飲み込み、筋胃（消化器官の砂嚢）に入れておき、昆虫の堅い殻をすりつぶすために親鳥がヒナにこれらを与えている。ブッポウソウが巣箱の中で死んだ場合、骨と共に筋胃のみが残っていることからその胃の強靱さが分かる。ちなみに、何万年も前、雑食恐竜・獣脚類（じゅうきゃくるい）の一部には、堅いクチバシを持つものの歯の無い恐竜がおり、これが進化して鳥になったとも言われている。食性は動物食で主にトンボ類、セミ類、カゲロウ類、甲虫類などの昆虫類等だそうです。こうした昆虫類の多くなる季節にブッポウソウがやってくる。また、ブッポウソウの特色として、飛翔しながら獲物を捕食するいわゆるフライイングキャッチが見られる。

東南アジアから日本まで何を頼りにやってくるのかが謎だが、星座を見る本能が備わっており、星座を読みながら渡ってくると言われている。鳥々で羽根を休めながら、はるばる遠い距離を渡ってくる。雛鳥が飛翔するようになると9月頃親鳥が先に東南アジアを目指して飛んで行き、雛鳥は独力で渡っていく。

生息域内では平地から山地まで分布し、水辺近い森林に生息する。寺や宮などの大きな木の樹洞や木製の電柱等を利用することもあるが、近年電柱はコンクリート製や鋼管製に変わり、巣にする適当なものが無くなっているため、ブッポウソウの生息数が激減している（環境省レッドリスト絶滅危惧 B類（EN）指定）。絶滅に瀕しているブッポウソウの繁殖を手助けするため、私たちが巣箱作りをしている。

以上のようなお話を、参加者は熱心に聞き入りました。

作製した巣箱は、4月14日（日）に、川小田周辺や芸北地域内に架ける予定です。鋼管柱かコンクリート柱に架けます。

暮町先生の用意周到な準備により、効率的に巣箱づくりが進み、玄人はだしとはこのことだと目を見張るものがありました。長年の経験と智恵をフルに活かし、材料と時間の無駄を排除、ブッポウソウが健やかに育つよう配慮され、きれいに出来上がった巣箱に感嘆しました。

上野先生の知見による専門分野の話は、尽きることなく豊富で、楽しいものでした。ブッポウソウに本能として星座読む能力が備わっている話には、自然界の不思議さを感じずにはいられませんでした。

次回の巣箱架けに続いて、プリズム様の羽根で急降下する姿を見る日を楽しみにしています。（しもすぎたかし）

※2013年7月15日に上野吉雄先生によるブッポウソウの観察会を予定しています。ご興味がある方は、高原の自然館までお問い合わせください。



効率よく巣箱を作っていく。



完成した巣箱と記念撮影。



上野先生も一緒に制作。



しっかりとした出来具合に満足。



出来具合を確認しながら作業する。



昨年のブッポウソウの観察会の様子。

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 山焼き後の雲月山植物観察会

開催日時：2013年4月27日(土) 9:30
集合場所：芸北文化ホール
講師：大竹邦暁・佐久間智子・和田秀次
準備：基本セット、お弁当
定員数：30名
参加費：一般=300円
賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

雲月山は2005年に山焼きが再開され、以降、部分的に毎年山焼きが行われています。山焼きは良い草を得るために行われてきましたが、草原に生育・生息する生き物にとってどのような影響があるのでしょうか？山焼き後の雲月山をゆっくり歩きながら、「火」による変化を観察します。

山歩きの前に芸北文化ホールで、座学を行います。

● カスミサンショウウオの産卵調査

開催日時：2013年4月29日(月・祝) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：内藤順一
準備：基本セット、長ぐつ
定員数：30名
参加費：無料

2007年度に造成された霧ヶ谷湿原の指標生物として、湿原内やその周辺に生息しているカスミサンショウウオを調査します。八幡地区では4月下旬に本種の繁殖が終わっており、卵囊(らんのお)を確認することでメスの個体数が推定され、湿原化がどれだけ進行したのか、判断されます。ヤマアカガエルやニホンヒキガエルの卵囊も確認されています。運が良かったら、卵囊の下にカスミサンショウウオの成体を見ることができるともかもしれませんよ。



桃の節句が終わるころ。春を知らせるマンサクが綺麗な花を咲かせていました。まだ春盛りとはいいいがたいですが、鳥や虫など、春の便りは身近の気づかない所にあるようです。私事ですが、3月末をもって退職となります。約1年間という短い期間でしたが、多くの方を通して様々なことを学ぶと同時に、ご迷惑をおかけしたことも多々ありました。この経験を活かし、次へ繋げていこうと思います。(はたもと)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info